

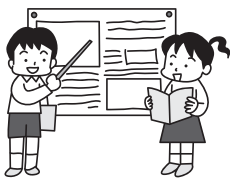
こどもの貧困対策を p.1からの続き

もっと勉強したくても経済的に困難を抱えている子どもがいる。また、学力の定着ができないまま進級し、授業が分からなくなっている子どもが現に存在する。やる気をなくしている子どもを励ましなが、基礎学力をつける支援が必要で、担任や養護教諭等の教員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの協力が重要ではないか。

(教育委員会)各部署と連携しながら、取り組む。

こども家庭支援センターやひとり親支援部署との連携と協力体制が重要ではないか。

(子育て支援部)協力体制をつくり、荒川区自治総合研究所最終報告書「地域は子どもの貧困・社会排除にどう向かい合うのか—あらかわシステム」の具現化に取り組む。



区内あちこちに「みんなの家」を…あらかわシステムの構築に向けて

厳しい不況の中、子育て世代、とりわけ、ひとり親家庭の就労条件が厳しい。朝ごはんを用意することができなかつたり、夜、子どもを一人にせざるをえなかつたり。貧困が広がる中、「こどもは地域で育てよう」と各地で取り組みが始まっている。朝ごはんと一緒に食べたり、夜、勉強をしながら、あるいは遊び相手として大学生がこどもたちと過ごす。そんなことが、中3無料塾を拡大して、区内のあちこちにできたらいいと思う。昼間は、子育てサロンとして、親子がつどい、お年寄りにも手伝ってもらおう。そんな「みんなの家」構想を荒川区で展開していけたら、それが全国からも注目されるあらかわシステムの構築につながるのではないか。

小中学生の禁煙について実態把握を

「喫煙は治療するもの」と考えるべき。今は子供向けインターネット禁煙など相談しながらの禁煙治療が行われている。小中学生の喫煙の実態把握をするべき。

区：検討したい。



防災

・備蓄倉庫の点検を区民参加で

年1回、防災課で行っている各学校などの備蓄倉庫の点検を近隣に呼びかけ、区民参加でおこなったらどうか。

区：区民参加型で少しずつ進めていきたい。



・女性リーダーの育成を

避難所運営では特に、女性リーダーの存在が欠かせない。女性の活躍を促進したらどうか。

区：参加者は男性が多いのは事実。区としてはあらゆる階層に声をかけていきたい。

高齢者

介護予防・見守りに区民リーダーの養成を

転ばん体操リーダーや認知症サポーター養成講座の参加者がさらに研修を重ねて、介護予防・認知症予防・支援や地域の見守り事業に参加してもらうことができるのではないか。それには、地域ごとの講座開催などで、輪を広げて参加を進めてほしい。

区：各地域の地域包括センター・見守りステーションが地域連携推進会議を開催して、情報・意見交換を行い、取り組みたい。

ころばん体操の参加率は

区：1500人くらい。介護認定を受けていない元気高齢者・37000人と比べるともっと参加してほしい。せの：要介護の出現率と比べながら介護予防の成果を確認し施策に生かしてほしい。

介護者相談・介護者いきいきサロンを各地域で行えるよう、体制づくりをお願いしたい。